

人権の知識深めて

交流センターでフェスタ



八幡人権フェスタ2020
人権啓発ポスターコンクールで受賞された皆さん

12月5日、「八幡人権フェスタ2020」を八幡人権交流センターで開催し、来場者85人が人権に対する知識を深めました。
同フェスタは、人権の大切さについて考えてもらおうと、人権週間(12月4日〜10



八幡人権フェスタ2020
認知症を発症した母親の介護について話す岡野さん

日)に合わせて市が毎年主催。第一部では、作詞家の鮎川めぐみさんが京都市府人権啓発イメージソング『世界がひとつの家族のように』を手話で披露し、人それぞれの違いを認め合う大切さを訴えました。

第二部では、認知症を発症した母親との生活を描いた漫画『ペコロスの母に会いに行く』の作者・岡野雄一さんが講演。岡野さんは自身の介護経験を通して、「介護はされる人よりする人が元気になることが第一。自分の時間もしっかりと持つて、いい距離で接して」と話していました。
また、市内の小・中学生から募集していた人権啓発ポスターコンクールの表彰式も実施され、来場者から受賞者に盛大な拍手が送られています。

花植え 6年生思い出づくり

中央小 新花壇に1年生と

12月4日、中央小学校の6年生と1年生が、校内に新しくできた花壇に花を植えました。

この行事は、6年生の卒業に向けた思い出作りのために、同校のPTAやこども見守り隊、児童のお父さんなどで作る中央小おやじの会の協力を得て実施されました。

花壇は、中央小おやじの会が草の生い茂っていた場所を整地し、材木で周りを囲うなどして作りました。

花壇に集まった6年生と1年生はペアになり、一緒に花植え。チューリップの球根やパンジーなどを仲良く植えていました。

植えたチューリップの球根は、花が咲けば卒業式の日に6年生に贈られる予定です。

長柄萌菜さん(11)は「花植えは楽しかったし、今年はコロナで1年生との交流も少なかったのですが、交流できてよかったです」と話していました。



花壇に花を植える児童

まちの話題

このページでは、市民の皆さんの活躍やまちの話題などを紹介しています。身近な話題や、広報紙についての意見を、秘書広報課までお寄せください。

「うし」筆に「全集中」

5歳児、書道で花丸に笑顔

12月9日、八幡第三幼稚園の5歳児15人が書道を体験しました。

その後、令和3年の干支である「うし」の字に挑戦し、講師が書いてくれた見本を見ながら、力強く伸びやかに筆を運んでいました。

同園では、園児に日本の伝統文化である書道を体験してもらおうと、毎年、文化協会書道部の会員を講師に招いて書道体験を実施しています。

完成した作品は、講師が添削。上手に書いて花丸をもらえると、園児はうれしそうに先生に見せていました。

園児は正座をして、講師に「よろしくお願いします」とお辞儀をした後、はじめてに書道の道具について勉強。筆や硯、文鎮など、道具の名前をみんな声に出しながら覚え

ました。園児が書いた作品は、1月20日〜31日に松花堂美術館で開催される書初め展で展示される予定です。



力強く筆を運ぶ園児

今月のこの人 現地で調査 記録後世に

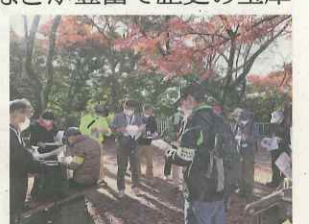
令和2年4月に発足10周年を迎えた八幡の歴史を探究する会は、多年にわたる功績が評価され、令和2年度八幡市文化賞・スポーツ賞「文化賞功労賞」を受賞されました。事務局長の高田昌史さんは「10年間の活動の成果を認めていただき、うれしいです」と受賞の喜びを話します。

同会は、講演会や学習会、研究発表、歴史探訪ウォークなどを毎月開催。会員の研究報告を会報にまとめ、ホームページにも掲載しています。

文献史料だけでなく、現地調査を大切にしている研究報告は「大学教授など、専門家からも高い評価を受けています」と代表の谷村勉さんは活動

の成果を誇らしげに話します。

「八幡は文化財や史跡などが豊富で歴史の宝庫です。会員を増やし、八幡の歴史を広く知っていただけるよう探究活動を続けていきたい」と、今後も飽くなき探究心を持って、八幡史を正確に後世に伝えていきます。



古寺巡礼の様子

本コーナーでは、市にゆかりのある人物や団体等を紹介していきます。自薦・他薦問わず、紹介希望者を募集していますので、詳しくは、市ホームページをご覧ください。秘書広報課へお問合せください。



八幡の歴史を探究する会の谷村さん(左)と高田さん

八幡の歴史を探究する会

△プロフィール▽
平成22年4月に発足。令和2年11月24日には会報100号を達成。現在の会員数は114人。